埴輪が伝える、
当時のこと。

～埴輪のポーズって意味があるの？～

太田市立太田中学校　一年Ｂ組　宮田 詩

1,きっかけ

初めて、東国文化自由研究にチャレンジするに当たって埴輪について調べた。
その時に埴輪が不思議なポーズをしていることに気づいた。

「埴輪のポーズって意味があるの？」「埴輪について調べてみたい！」

そう思った。正直な所、後者の方はインターネットなどで調べてみれば簡単に出てくるのだがここは自分の目できちんと見てから自分自身の推測をしたいと思い、このようなテーマになった。

2,調査をするに当たって

どこに行けば埴輪を見ることが出来るのだろうか。群馬県内にある施設を調べてみた。

すると、「塚廻古墳群四号墳」という施設を見つけた。

この施設は群馬県龍舞町にあるという情報があった。今回はこれらの施設に実際に行って自分自身で埴輪のポーズについて推測してみようと思う。

～そもそも埴輪とは～

簡単に言うと埴輪とは「古墳の墳丘上に立て並べられた素焼きの土製品」のことだそうだ。古墳時代の日本特有のものであり、大きく円筒埴輪と形象埴輪に分けられる。埴輪は基本的に中は空洞であり、粘土で紐を作り、それを積み上げていきながら形を整えて作ったという。時には、別に焼いたものを組み合わせたりしている。また、いろいろな埴輪の骨格を先に作っておき、それに粘土を貼り付けるなどもしているそうだ。

3,調査

↑塚廻古墳四号墳の道中を撮影した写真

この写真は塚廻古墳四号墳までの道中を撮影した写真だ。

＊この写真から分かること・感じたこと＊

・古墳は田んぼに囲まれている。
・奥に大通りや建物が立ち並んでいる。

実際に行く中でのどかな風景と自然を通して、改めて「群馬県は自然が綺麗でいいところだ」と感じた。そんな魅力のある群馬県と古墳は大切にしていくべきであるし、もっと色々な人に魅力を知ってほしい。塚廻古墳群四号墳は、田んぼに囲まれているが数百㍍移動すると、コンビニエンスストアやイオ

ンモールなどの身近な建物も近くにあり、とても行きやすい場所だということも感じた。

↓↘塚廻古墳群四号墳の道中を撮影した写真

⇩ちょっとした息抜きや散歩にもいい！⇩

実際に行ってみると、興味深い埴輪が沢山あった。

＊埴輪の見た目＊

＊左の二枚の写真から読み取れること＊

・手を挙げている埴輪がある。
・一部分が欠けている埴輪もいくつか見つかる。
・巻物のようなものを持っている埴輪がいる。
・椅子に座っている埴輪がいる。
・しゃがんでいる埴輪もいる。
↳埴輪は色々な見た目がある。

思っていたよりも色々な見た目を持った埴輪がいたということに驚いた。私の中で、埴輪というと左手を挙げているというイメージがとても強かったからだ。近くで見ると、手・足・顔のパーツまで細かく作られていて、当時の人の技術の高さに圧倒された。また、ここまで壊れない耐久性にも感心した。人形の埴輪だけでなく、馬の形をした埴輪もある。左下の2つの馬形埴輪に外見上大きな違いは見られなかった。写真だと分かりづらいが、鴇色の色が付けられている。インターネットによると、表面に赤色顔料が塗られていたというので、関係があるのかもしれないと思った。また、鞍や頭絡のようなものもついていた。埴輪は色々なポーズと種類があって、古墳内を回っていてとても楽しかった。

③

〈特徴〉

・土下座のような
　ことをしている。
・服を着ていることが
　はっきりと分かる。
・髪が長い。

⇒

土下座→自分より身分が上の人がいる
服→勾玉を付けていない
　↳庶民の可能性が高い

王に仕えている人を表している埴輪なのではないか。

---

④

〈特徴〉

・鞍や頭絡を
　付けている。
・鈴を付けて
　いる。

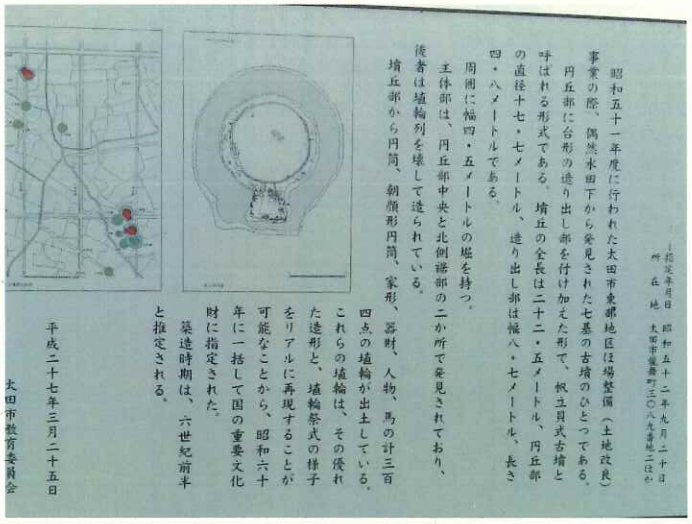
⇒

鞍や頭絡→食用ではなかった
鈴など→沢山ついているから、身分が高い人
　　が飼育していた？

高貴な人に仕えていた人などを運ぶ馬を表している埴輪なのではないか。

4つの埴輪を見たが、どれもそれぞれ特徴があり、埴輪のポーズには意味が有りそうだということが自分自身のなかできちんと理由もつけて言えるようになった。本当の正解は当時、弥生時代の作った方でないとわからないかもしれないが、自分なりに考えていくのはとても楽しかった。

＊塚廻古墳群四号墳のマップ＊



マップや説明からも重要なヒントが得られそうだ。まずは右側のマップと説明を見ていこう。マップを見ると鍵穴のような形の前方後円墳に見た目が似ていることが分かる。しかし、これは「**帆立貝式古墳**」と呼ばれる古墳のようだ。前方後円墳とは円形の墳丘と、方形の墳丘が結びつけられたような形をしているものを指している。逆に帆立貝式古墳とは、厳密には円墳に方形の造り出しが付属したものと、前方後円墳の前方部が短小化したもののことを指して

左の写真は朝顔形埴輪と円筒埴輪（3段突帯）を映したものだ。真ん中にある大きめで花が咲いているような埴輪が「朝顔形埴輪」、左右にある小さめの埴輪が「円筒埴輪（3段突帯）」である。私の中で埴輪というと、人形をしているものという勝手なイメージがあったので見た時には驚いた。この2つの埴輪も、写真だと分かりづらいが、馬と一緒で少し鴇色が入っている。

左の写真は「太刀」だ。刀には一瞬見えないが、右の一部分が刀を持つ部分に見えると思った。昔はこのような刀を使っていたのだろうか。そう考えると楽しくなってきた。

左下の写真は「盾」である。そこでふと考えたのだが、やはり埴輪が作られた弥生時代は争いがあったのだなと思った。埴輪から読み取れることは沢山あると改めて感じた。

下の写真は「家」だ。屋根が大きくて当時の生活の様子をよく感じられるものだった。

↖←塚廻古墳群四号墳で撮影した写真
（2022年7月28日木曜日撮影）

～埴輪のポーズを考察～

時代風景をもとに埴輪のポーズを考察していく。

①

〈特徴〉
- 左手を挙げている。
- 勾玉のようなものを付けている。
- 帽子のようなものを被っている。

⇒ 勾玉→権力を持った王や儀式をする人のみが付けられる。
古墳→有力者の墓

儀式をしていた人をかたどった埴輪では無いだろうか。

---

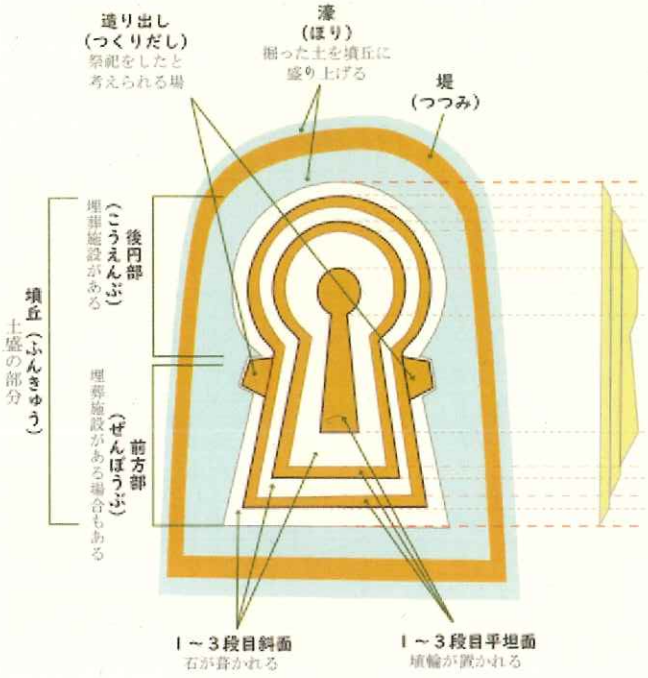
②

〈特徴〉
- 椅子に座っている。
- 服を着ていることがはっきりと分かる。
- 髪が長い。

⇒ 弥生時代→上下関係が生まれる
服→勾玉を付けていない
↳庶民の可能性が高い

庶民を表している埴輪なのではないか。

いる。しかし、この2つの古墳を見分けるのが難しいことも少なくはないのだという。（インターネットから引用）塚廻古墳群四号墳の帆立貝式古墳は、墳丘と呼ばれる土盛の部分の全長は22・5㍍、円丘部の直径は17.7㍍、造り出し部と呼ばれる左右にある出っ張りのような部分は幅8.7㍍、長さ4.8㍍にも及ぶ。墳丘部から出土された、円筒・朝顔形埴輪・家形・器材・人物・馬の計304点の埴輪は、その優れた造形と埴輪祭式の様子をリアルに再現することが可能なことから、昭和60年に一括して国の重要文化財に指定された。この古墳の築造時期は六世紀前半と推測されているそうだ。昔に作られたものだと改めて実感するとともに、築造時期の推測ができる研究家などの技術にも驚いた。



次に左のマップと説明を見てみよう。このマップからは、塚廻古墳群四号墳の様子が一目でわかるのが特徴だろう。赤丸の数からこの古墳からかなりの埴輪が出土されていることがよくわかる。初め、この数を見た時は「こんなにもあるのか」と驚いた。埴輪の数からも、当時の王がどれだけの人に慕われていたかがよく分かる。大勢の人が協力して、時間と手間をかけて作ったであろう古墳は存在感が大きかった。また、マップからは、右図の前方後円墳と帆立貝式古墳の違いも明らかになる。確かに、「帆立貝式古墳」はその名の通り、帆立のように見えると感じた。

4,まとめ～調査してわかったこと～

今回、塚廻古墳郡四号墳に実際に行ったり、インターネットを活用して古墳や埴輪について調べていくうちに学んだことや、知ったことが沢山ある。

・埴輪とは「古墳の墳丘上に立て並べられた素焼きの土製品」のことを指すこと。

・埴輪は、中は空洞であり、粘土で紐を作ってそれを積み上げていきながら、形を整えて作ったこと。

・先に焼いたものを組み合わせたり、骨格を先に作っておくこともあるということ。

・埴輪には沢山の種類があること。

・埴輪には表面に赤色顔料を塗っていること。

・埴輪には、様々なポーズや見た目があり、そのポーズには当時の人々の服装や様子を表していること。自分なりに個々のポーズを推測し、自分だけの答えを見つけることができた。

・塚廻古墳群四号墳は「帆立貝式古墳」という。帆立貝式古墳とは、円墳に方形の造り出しが付属し、前方後円墳の前方が短小化したものをいうということ。

・この古墳は、土盛の部分の全長が22.5㍍、円丘部の直径は17.7㍍、造り出し部の幅は8,7㍍、長さ4.8㍍にも及ぶこと。

・墳丘部から出土された304点の埴輪は、昭和60年に国の重要文化財に指定されたこと。

・この古墳の築造時期は六世紀前半と予想されていること。

5,感想～調査して思ったこと・考えたこと～

今回考えたことは、あくまでも自分自身の考えである。そのため、この推測が正しいとは限らない。けれど、自分なりに、入手した資料で埴輪のポーズに込められている意味を考えることができたと思っている。今回、私達の地元に国の重要文化財に指定されているものがあるということを知り、地元の自慢が増えて嬉しかった。改めて群馬県は良いところだと思った。古墳内を回っていて、古墳はただ見て「凄かったね」で終わるのでなく、古墳の良さや魅力が見ている多くの人に伝わると、本当の「来た価値」が生まれるのではないかと考えた。私自身も、実際に訪れることで伝わった、古墳の魅力が沢山あった。これからも、古墳について調べてみたい。そうすればきっと「温故知新」という四字熟語のように、新しい考えが生まれるのでは無いだろうか。そんなことを考えさせてくれた「東国文化自由研究」だった。

6,参考文献

〈サイト〉
・令和3年度 「東国文化自由研究」表彰式及び作品展示について
・日本国語大辞典–ジャパンナレッジ
・埴輪–Wikipedia
・円筒埴輪と朝顔形埴輪／小松市ホームページ
・勾玉についてみてみよう！春日市
・帆立貝式古墳とは–コトバンク
・前方後円墳とは–コトバンク

〈施設〉
・塚廻古墳群四号墳（展示物及び資料等）

ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。